

柳筋 三宮町三丁目 の概要

柳筋商店街は昭和四十四年四月五日、近代的なアーケードを完成、祝賀式典を行ったのを契機に『三宮センター街三丁目』として、センター街連合会に加盟した。

現在は『センター三三街』という愛称で呼ばれているが、これは昭和五十一年秋に、舗道を赤煉瓦に改修した時、一般から募集したもので、キャラクターも決まっていた。

戦後もしばらくは三宮町三丁目の全域が一つの町会で、この通りは昭和二十二年頃までは道幅も三層ぐらいの狭い路地で、十五、六軒ばかりの飲食店が焼跡のバラックで営業している程度、ひっそりした裏通りに過ぎなかった。

その頃、隣保であるセンター街が発展のきざしを見せはじめたので、この通りでも何か手を打たねばと、まず町内会を作り全員が役員になって協議の結果、神戸市の許可をもらって道路の両側に柳の木二十本を植えて柳筋と命名した。それから町にちなんだ柳荘とか柳旅館とか、柳という麻雀荘が誕生し、会員



柳筋発展の功労者
藤和頼太郎氏

がコッコツと道路整備に励むなどの努力が実り、朝鮮動乱の影響もあってか外人バーがふえ、柳筋も漸く活気を呈してきた。初代会長藤和頼太郎

う女性が通うスタンドも流行っていた。鎌田の糸平さんが、焼け残った赤煉瓦の上で焼いている鰻の匂いを嗅ぎながら、いつの日かこれを腹いっぱい食べてやろうと、けなげな決心をしたときもあった。

柳筋に柳が植えられたのは昭和二十三年頃だろうか。彫刻家の新谷秀雄さんと二人で、流して歩いたことがある。新谷さんがウクレレをひき、私が歌うのである。

本職の流しが眼を怒らせてきても、
「やあ、旦那方ですか」

顔見知りだったりして、ニヤリとされたのも今では懐しい。ダンスホールの「ソシヤル」で喧嘩が始まり、仲裁に入ったときなどは、気がついたら、ホールの床に伸びていた。あとで聞くと、多数の乱闘だったので、喧嘩相手と間違えられ椅子でなぐり倒されたのだそうだ。

こういう思い出は、今の三宮センター街の輝きからは伺うすべもない。
(作家)



▲昭和22年春。地球の上に朝が来る…で一世を風靡した川田晴久氏とトアロードを行く北森愛紹氏。

氏の功績に追うところが多い。その後、外人バーもへり、現在の
のような物品販売四分、飲食店関係六分の街並みになった。

三十年頃になって、柳筋は自ら率先して都市計画を申請し、
道路を一挙に六分の二倍の広さに拡張し、同時に下水、ガス、
電気工事も相ついで整備、町並みは面目を一新した。

それを機会に東入口に最初に三三ビル(北森、矢野、真壁氏)
が建ち、西に角丸ビルが、その後次々とビル化して現在に至る
が、それでも三十五年頃まではまだ空地が目立っていた。

昭和四十年、十八年間会長を勤めた藤和氏が顧問になり、北
森愛紹氏が会長に就任、近代化第二期へはいる。

その第一号事業としてアーケードの建設が決まったが、今は
大きく育って長年親しんできた柳並木への郷愁が強く、切るこ
との賛否両論相半ばして仲々結論を見なかつたのであるが、商
店街近代化はそれを優先するとして、四十三年柳を切り総工費
三千五百万円をかけて翌年四月竣工、センター街へ加盟。

翌年より宮本正三氏が会長に就任、五十年四月振興組合を結
成して今日の盛業を勝ち得たのである。

△柳筋商店街時代の会長、副会長▽

- ☆藤和頼太郎氏「スター時計店」 昭和23年～40年3月 会長
- ☆押切博氏「オリンピア」 昭和23年4月～33年3月 副会長
- ☆矢野太郎氏「ヤノスポーツ」 昭和33年～42年3月 副会長
- ☆角丸時雄氏「角丸印刷」 昭和40年4月～42年3月 副会長



▲道幅を6分に拡張して工事を急ぐ(昭和31年頃)
右は道路、水道、下水、電気等の諸工事が完了して
お祝いの会の記念写真(昭和32年)



▶三三ビル。昭和三十三年に
東入口に出来た柳筋では第一
号のビル

